

撮影者(上から)

1. 飯田 卓
2. 梅棹 忠夫 3. 石毛 直道

地域研究画像
デジタルライブラリ

DIPLAS

新学術領域研究『学術研究支援基盤形成』



「地域研究画像デジタルライブラリ」 公募プロジェクト

フィールドワークで蓄積された写真資料をデジタル化・データベース化し、研究に活用できるプラットフォームを提供します。

令和3年度
2次募集開始

申請期限: 令和3年10月29日[金]

日本の研究者が世界各地で調査するさいに撮影した写真や動画などの画像資料は、調査当時の実態を記録した研究資源であると同時に、日本の学術史を反映する学術遺産でもあります。

この事業は、世界諸地域を対象として現在進行中の科学研究費助成事業のプロジェクトを対象に、これまでに蓄積された画像資料のデジタル化・データベース化を支援し、将来にわたる研究情報の集積と共有化の基盤を整備して提供するものです。

この事業の実施にあたって、進行中の科研費採択者を対象に広く公募をおこないます。

採択されたプロジェクトに対しては、写真・映像資料の整理、デジタル化とデータベース化を進め、さらには画像内容に関わるテキスト情報の入力支援もおこなうことで、研究に活用できるデジタルデータのプラットフォームを作成して提供します。また、公開可能な画像については、国際的な共有化をはかり、分野の別を超えたオープンサイエンスの基盤を構築していきます。

皆さまの応募をお待ち申し上げます。

研究支援代表者 吉田 憲司(国立民族学博物館・館長)

この事業の目的は、現在進行中の科研費プロジェクトを対象としてこれまでに蓄積された画像資料のデジタル化・データベース化を支援し、研究の格段の進展を促すことにあります。

公募プロジェクトに対する支援内容

採択されたプロジェクトの代表者が所有・保管または活用の依頼を受けている写真資料に対して、利用許諾に関する手続きを行ったうえで、デジタル化・データベース化を進め、AI（画像内容の自動認識機能等）も活用しつつ、地域研究に有用な基本情報（テキスト）を付加して返却します。このデータベースは逐次、情報を付加・充実できる仕様とし、支援期間の終了後も継続的に学術研究の展開に活用できるものとします。

対象となる資料

支援を受ける科研費プロジェクトの研究代表者または研究分担者が自身で撮影したもの、ならびに所有・保管または活用の依頼を受けている写真資料。デジタルカメラで撮影された画像またはフィルムからのデジタル化を終えた画像のみを対象とします（今回の募集ではスライドやネガなどを対象としません）。また、撮影者が特定できるものに限ります。

申請の手続き

● 応募書類

申請は所定の様式による申請書を提出してください。申請書は、地域研究画像デジタルライブラリのホームページからダウンロードできます。

http://diplas.jp/call_for_projects.html

申請書には、支援を受ける科研費プロジェクトの研究計画調書の写しを添付してください。また、**内容がわかる画像サンプル**を少なくとも1点添付してください。

● 申請期限

令和3年10月29日（金）までに申請書と計画調書の写しを提出してください。

（郵送の場合は必着、メールの場合は16時30分までに送信してください。）

● 提出先および問い合わせ先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

国立民族学博物館研究協力課研究協力係

Tel: 06-6878-8209

e-mail: kaken@minpaku.ac.jp

● スケジュール

申請期限：令和3年10月29日（金）

▼公募プロジェクト審査委員会において採択課題を決定

▼採択決定：令和3年11月末

▼採択されたプロジェクトの代表者に対するワークショップ：12月初旬に開催予定

▼写真資料のデータベース化作業

▼成果の報告と情報の共有化に関わる会合：年度末に開催予定

公募については、「地域研究画像デジタルライブラリ」ホームページに、さらに詳しい内容を記載しています。ホームページもご確認ください。
http://diplas.jp/call_for_projects.html

ホームページ
QRコード



応募資格

公募年度において進行中の、地域研究に関わる科研費プロジェクト（研究成果公開促進費のプロジェクトを除く）の研究代表者、および研究分担者（ただし研究代表者の承諾を得ていること）。ここで言う地域研究とは、科研費に応募する際の審査区分ではなく、地域研究や関連する手法によって国内外の各地域を対象とする研究プロジェクトを指します。**応募資格の詳細につきましては公募要領をご確認ください。**

研究支援期間と支援件数

採択された年度末までの単年度。年度内に、データベースを提供します。

支援件数は年間計15件程度。写真資料の点数は原則として5000点以下とします。

The screenshot shows a web interface for managing digital image data. It features a main image of a nomadic settlement in a mountainous region. To the right, there are several panels: '基本情報' (Basic Information) with fields for title, description, location, and dates; '基本情報 英語' (Basic Information English); '基本情報 その他' (Basic Information Other) with fields for keywords and classification; '管理情報' (Management Information) with fields for title, author, and date; and '原資料情報' (Original Material Information) with fields for image number, date, and quantity. The interface is in Japanese and includes navigation buttons like '戻る' (Back) and '進む' (Next).

提供しているデータベースの例
DiPLAS 松原正毅「ユーラシア遊牧社会コレクション」より

《科学研究費助成事業名》

新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム『地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化』（課題番号：16H06281、中核機関：国立民族学博物館）。支援機能名は地域研究画像デジタルライブラリ（略称DiPLAS）。